

# Oda-KAGURA

今できることを精一杯つなぐー  
伝統を継承していくために。

## 金鑽神楽太駄組

「それじゃはじめよう」という掛け声とともに、「ドンドンカツ、ピー」と囃子の演奏が鳴り、それに合わせて、神様の役を演じる人たちが舞を踊ります。

### 明治からつながる伝統

児玉町太駄地区で明治26年から伝え続けられる金鑽神楽太駄組。4月16日に行われる岩上神社祭礼での奉納に向け、練習にも熱が入ります。1年を通して月2回程度行われている練習も、本番が近づくと毎週行われるようになります。「神様に奉納するものだから人出は関係ない。だから、せっかく練習しているから、本番はたくさんの人に見てもらいたい」と金鑽

### 神楽でつながる地域

「練習は情報交換の場にもなっている。あの人がどうした、この時期には畑になにを撒くとか、いろいろな話を共有することができ、地域のことを知れるし、みんなと話すことが生きがいになっていく」と櫻井さん。練習が終わると、さっきまでの真剣な表情とは打って変わり、机を囲んでのお茶会が始まります。世間話から、みなさんの笑顔

### 減少する地域の子ども

「猫の手も借りたいけど、猫じゃあしうがらないしな」と笑いながら話すのは、今年で80歳の中里八郎さん。「この地域には、子どもがいらない。みんなせがれは、仕事の関係でこの地区を出て行ってしまったよ。子どもが生まれた話もなかなか聞かないね」。太駄地区は、本庄市の中でも少子高齢化・人口減少が顕著な地域で、その問題は深刻化しています。

### 担い手不足 伝承の危機

神楽にとっても少子高齢化・人口減少は大きな問題です。絶対数が少なく、担い手がなかなか見つからない。昔は、本泉小学校に神楽を教えていましたが、小学校が休校してからは行っておらず、また、教えた子どもたちも、みんな地域を出て行ってしまったと言います。

減り続ける担い手。

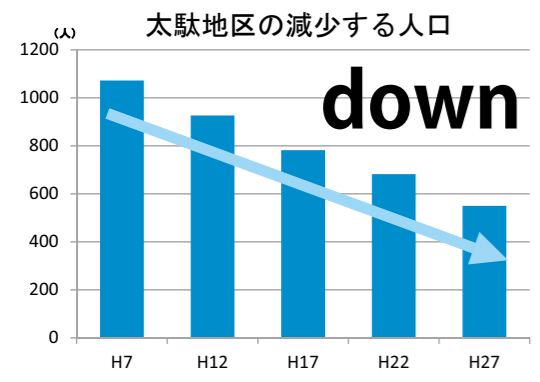
伝承するために、  
まずは神楽を見てほしい。

年に8回多いときは行っていたという奉納も、現在は、4月の岩上神社と2月の稲荷神社への奉納のみ。時代の流れと担い手不足により、100年以上続く伝統は危機を迎えています。



3月11日に行われた練習風景。この日に行われたのは「岩戸開」。神楽の起源となった神話を演じる舞であり、その座は神楽の中でも重要とされている。囃子に合わせて、それぞれが与えられた神様の役を演じる。岩戸に隠れてしまった天照大神を神様たちが相談し、岩戸から誘い出す。

1 櫻井さんの大太鼓が鳴り出すと練習が始まる 2 神々が相談をしているシーン 3 天照大神を誘い出す 4 練習に入ると空気が変わる 5 手力王という神様のお面と衣装 6 昭和63年に埼玉県から文化ともしび賞を受賞



櫻井さんは「チラシなどを回覧して勧誘はしているが、なかなか。今できることをやってみようかな」と言っています。最年少66歳、最年長89歳山下部タケさん。平均年齢73歳の全員で10人の保存会。担い手不足に頭を抱えていることに間違いはありません。次の担い手は見つかりそうですかという質問に、みなさん口をそろえて「いないね」と言います。人数がギリギリで1人で何役も演じなければならなかったため、「見ている人を持たせたいため、早く着替えるのが大変」と、袴の片足部分に両足を入れたまま舞台に出てしまったという笑い話も。未来へつなぐために

**岩上神社**  
(児玉町太駄 293-1)  
4月16日(日)  
午前11時30分頃～  
午後2時頃

Google マップ



3月23日の練習に参加した金鑽神楽太駄組保存会のみなさん